

科目名	日本の文学	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			全学科	□必修 ■選択	
英文表記	Japanese Literature	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	はしもと しほ	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	橋 元 志 保	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	日本の近代と文学ー人間の真実に触れようー				
到達目標	この授業の単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力が身につきます。 1. 日本の近世～近代に関する歴史の基本的な事項を把握できるようになる。 2. 特に幕末～明治時代にかけての国民の誕生、国民国家の成立、諸外国との関係等及び、それらが抱える問題点を理解できるようになる。 3. 小説や随筆の読解力が身につく、またそれを考察し、表現することが出来るようになる。				
授業概要	夏目漱石の言葉を引用するまでもなく、日本の近代化は外発的に始まります。鎖国によって閉ざされていた日本が、国際社会に向かって初めて開かれたとき、日本人たちが見出したものは西洋列強との圧倒的な国力の差でした。産業革命と共に急速に発展し、アジア各地で植民地を獲得する先進国の脅威を常に感じながら、日本の近代化は西洋の「三百年の活動を四十年で繰り返す」勢いで進められたのです。 本講義では、国民国家の形成期にあたる近代から、現代にかけての様々な文学や評伝を読み解き、日本及び日本人に関する考察を重ねていきたいと思っています。また、近代日本の夜明けともいうべき時代の息吹を感じてもらいたいと考えています。				
授業計画					
第1回	明治維新と近代化ー日本人というアイデンティティー				
第2回	国民国家の誕生ー司馬遼太郎『明治という国家』Ⅰー				
第3回	国民国家の発展ー司馬遼太郎『明治という国家』Ⅱー				
第4回	日本の近代ー司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むⅠ 幕末から明治維新へー				
第5回	日本の近代ー司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むⅡ 士族の反乱と西南戦争ー				
第6回	日本の近代ー司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むⅢ 江戸から東京へー				
第7回	日本の近代ー司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むⅣ 立身出世と学歴社会ー				
第8回	日本の近代ー司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むⅤ メディアと文明開化ー				
第9回	日本の近代ー司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むⅥ 条約改正への長い道のりー				
第10回	日本の近代ー司馬遼太郎『坂の上の雲』を読むⅦ 海外留学と日本人ー				
第11回	国民国家の成立ー日清・日露戦争と『坂の上の雲』ー				
第12回	近代日本と外国人ー司馬遼太郎『この国のかたち』を読むー				
第13回	近代日本と外国人ー小泉八雲『日本人の心』を読むー				
第14回	世界の中の日本ー船曳建夫『「日本人論」再考』を読むー				
第15回	<総括> 世界の中の日本ー近代から現代へー				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業で取り上げる小説や資料を、指定された頁まで必ず読んでおきましょう。難解な語句や漢字は必ず辞書でその意味を調べましょう（1時間程度）。 2. 毎回課題プリントを配布しますので、授業内容を復習しながら記述し、提出してください(1時間程度）。 3. 授業の際に紹介した小説や評伝、エッセイ等をぜひ読みましょう（1～2時間程度）				
履修条件 受講のルール	「文章の読み方」と同時期に受講するか、既に単位を修得していることが望ましい。それ以上に、授業態度が真面目で、主体的であることが望ましい。				

テキスト	司馬遼太郎『坂の上の雲』第1巻(文藝春秋)を必ず購入してください。 上記以外は、資料を配布します。
参考文献・資料	授業時に紹介します。司馬遼太郎『坂の上の雲』第1巻～第8巻(文藝春秋 1999年)・司馬遼太郎『明治という国家』(日本放送出版協会 1994年)・小泉八雲『日本の心』『明治日本の面影』(講談社学術文庫 1990年)・船曳建夫『「日本人論」再考』(日本放送出版協会 2003年) 他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢(15%)、課題の提出(25%)、試験(60%)】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とします。 講義中に無許可で退出した場合は、欠席とします。
オフィスアワー	火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 ※これ以外の時間は、事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	ぜひ、近代日本の夜明けともいうべき時代の息吹を感じてください。高校までの日本史の時間とは違い、歴史のダイナミックな動きや、過去に生きていた人々の想いやその生活を肌で感じられるような授業を目指しています。また、近代史は公務員の採用試験に出題される頻度が高い分野です。